

# 自分の心には何が刻まれたか

## 文化祭の生徒感想文より 1

文化祭はたくさんの保護者・地域の方々にも観覧していただき、成功裏に幕を閉じました。この文化祭のスローガン「刻め ～熊中の歴史に～」のとおり、素晴らしい文化祭として、みなさんの記憶にも熊中の歴史にも残るステージと展示でした。

ステージ部門が終わった後の作文には、本番当日の感激だけでなく、それまでに取り組んできた練習期間中の苦労も合わせて「自分の心に残った。」「努力の手応えを感じた。」という感想が多くありました。熊中だより 17～20 号には、そんな生徒作文を、各学級から一つ選び、内容を抜粋して掲載します。

初めての文化祭。初めての学年合唱。小学校の音楽会などでは、心を一つにして歌うことができなかつたから、中学では頑張ろうと思っていた。

本番の二週間前、練習が始まった。練習を始めた直後は、皆仲の良い子と私語をしたり、ふざけ合ったりして練習を真面目にやっていた。先生に注意されても、陰で笑いあったり、話をしたりする場面も多々見られた。しかし、パートリーダーたちが呼びかけを始めてから雰囲気ガラリと変わった。リコーダーの難しいところをあきらめずに挑戦したり、大きな声で歌ったりなど一人一人の長所が出てきた。「文化祭に向けて頑張ろう」という気持ちが皆の心を動かし、一つにしたのではないかと思う。「良い集団は良いリーダーがつくる」と先生に言われたことに納得した。また歌の前の呼びかけでは、一人一人大きな声を出せていて、良かったなと思う。自分が言うところも、間違えずに言うことができた。

この文化祭で、私は本気で何かをやりとげる楽しさを知った。最初はただただ歌っているだけだったり、ふざけ合ったりしていたけれど、最後は皆で心を一つにして文化祭を終えることができたと思う。

1 の 1 中原 瑠衣菜

# 熊中だより

校長室通信  
第 17 号

北九州市立熊西中学校  
校長 安部朋恵

ぼくはリコーダーリーダーという、みんなより先に練習して、それを教える人になりました。リコーダーリーダーは思っていたのより難しく、短時間で楽譜を覚えなければならぬので、ぼくは、「こんななるんじゃなかった。」と思いました。でも練習するたびに指がついていけるようになり、吹けるようになりました。パートのみんなに教えるのも難しかったけど、みんなだんだん吹けるようになって、僕はリコーダーリーダーになってよかったと思いました。先生に怒られる日もあったけど、先生たちが怒ってくださったおかげで、ぼくたちは成長したので、ものすごくありがたいと思いました。

文化祭当日、ぼくたちは緊張感の中、体育館に入りました。いよいよぼくたちのステージとなりました。はじめは「カノン」の合奏で、ぼくは本番なのにミスりまくってしまったけど、パートのみんなが支えてくれました。合唱ではサビの部分とか、盛り上がるころとかを心配していたけど、うまくできたのでよかったです。エンディングセレモニーの全校合唱はとても気持ちの良い終わりでした。

1 の 2 中道 幸紀



トーンチャイム 1 曲目はたくさんまちがえたけど、2 曲目と 3 曲目はばんかいして、大成功しました。終わった後に、たくさんの人にほめられました。

3 年 1 組の白雪姫の劇がおもしろかったです。たくさん笑いました。3 年 2 組の夢からさめた夢はダンスがあって、そのダンスがおもしろかったです。3 年 3 組の劇は衣装がすごかったです。合唱部のディズニーのメドレーがあったけど、ぜんぶ知らない歌でした。でも、すごかったです。

1 年のリコーダー演奏をしていて、途中で分からなくなつたけど、歌はぜんぶ歌えました。来年も一生懸命頑張ります。



1 の 5

藪下 竜也